



米ハーバード大院、英ケンブリッジ大院修了など
教育関連会社CEO

森田正康さん(37)
「仕事」の幸福度が0なのは、「究極の目標のまだ入り口にも立っていないから」。「お金」10は「興味がないから」。「健康」3は、結婚して15キロ太ったことが理由



感じる幸福度(各10点満点)

ハーバード大、ケンブリッジ大、コロンビア大、東京大……。教育関連会社「ヒトメディア」CEOの森田正康さん(37)は、世界中の名だたる難関大学で学んだ経験がある。

「学歴を言うと『すごいね』と言われるんですが、自分では好奇心に従って学ぶ場所を探した結果、たまたま入っただけ。学歴にこだわったことはありません」
12歳の時、海外暮らしを思い立った両親に連れられ、米サンフランシスコに移り住んだ。数学は得意だったが、英語はできず劣等生。得意のサッカーで友達を増やした。米国では試験の

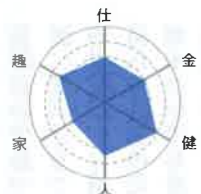
点数だけでなく、総合的な人間力が受験の可否を決めるので、突然移住してきた日本人、という特異性はプラスに働き、塾も家庭教師もなく、高校受験を乗り切った。

高校は進学校で、周囲はレベルの高い大学に進む友達が多かった。森田さんも自然に学ぶ習慣ができ、大学はカリフォルニア大バークレー校へ。政治経済を学んだが、世界により大きなインパクトを与えるのは教育とインターネットだと思い立ち、その最高峰の勉強をするためにハーバード大の大学院に進んだ。その後さらに児童心理学を学ぶため、英国に渡りケンブリッジ

大学に進んだ。森田さんの話を聞くと、いとも簡単に超難関大に次々と合格したようだ。

好循環が続く利点

「正直、必死に勉強した記憶はありません。周囲もそれが普通で、特別なことをしたという感覚がない。高学歴の利点は、一度そういう環境に入ると好循環が続くことでしょうか」
ケンブリッジ大時代にお金が



東大中退
フリーライター(34)

中高生の頃は、周囲の期待に応えることが自己評価の基準になってしまったという。「自分のやりたいことが具現化できている、クリエイターやスポーツ選手はいいと思う。それに世間での評価も付いてくると幸福度が一番高いのではないだろうか」

なかつたため、翻訳のアルバイトでもできたらと、語学の通信講座などの会社である「アルク」にホームページを通じて連絡した。すると、異色の経歴と高学歴が目にとまり、ハーバード大で学んだ経験などを著書にして出版するという話に発展した。米国に戻り、コロンビア大大学院の博士課程でテレビと教育に

ついて学んでいると、再びアルクから声がかかり、日本で子会社の取締役としてネット事業に取り組むことが決まった。

日本では働きながら、東大の博士課程で工学を学んだ。現在の会社を起業したため忙しくなり、東大は単位取得退学となったが、森田さんにとっては、働くことと学ぶことはどちらも不可欠だという。

「ハーバードの教授たちは大学で教えるだけでなく、ビジネスや政治の世界でも活躍していた。それが僕の原点。働きながら学び、学んだことを社会に還元する、そうできることが一番幸せなんじゃないでしょうか」
学歴でチャンスを得たことも確かだが、森田さんにとって学歴の最大の効能は、他者から与えられるものではないという。仕事などで悩んだ時、自分は世界最高峰の大学で学んだという自信が、乗り越える力を与えてくれる。ビジネスで難解な交渉に直面しても、優秀な学生たちと大学で議論した経験から解決の糸口が見えることがある。

「学歴は自分の支えになるわかりやすいツールの一つであることは間違いないと思います」
果たして、学歴は人生に幸せをもたらすのか……。最近

学歴レベルバレッツ幸福論

幸・不幸を増幅させる学歴の効用とは

就職、結婚、出世……。人生の様々な局面でものをいう学歴。高学歴が人脈を広げチャンスをもたらす一方、期待値が高まるゆえに挫折感が膨らむこともある。学歴と幸福の関係を考える。

編集部 木村恵子、金城珠代

